

# ライダーズ・イン・ザ・スカイ 第88号

新潟県央工業高校（旧三条工高）山岳部OB会発行 2017.9.15

## 1 2017 OB会総会を学校・合宿所と弥彦山で開催

期日 2017年10月28日（土）・29日（日）

会場 県央工高共和会館（合宿所） 電話：同窓会事務所 0256-33-0880

会費 1,000円（茶菓・ソフトドリンク代、カンパ）

夕食と翌日朝食の用意はしてありません。各自で用意するか、それぞれで近隣の飲食施設の利用となります。

持ち物 宿泊者はシュラフ・マット他（合宿所所在は同窓会HPの「事務局の所在紹介」をご確認ください）  
合宿所はフローリングで寝具、食器・武器等の用意はありません。

28日は文化祭です。  
文化祭から続いて参加を！

### 第1日 OB会

18:00 総会開会 会長あいさつ 議事 現役報告 記念撮影

会員交流（現役も交えて）

↓ 齋藤会長退任のあいさつ  
自己紹介・近況報告

↓ 夕食・自主交流

それぞれで合宿所の中か近隣の飲食施設を使ってください  
トレーニング場ボルダリングボード使用も可です

校地内での飲酒・喫煙はできません

議事では齋藤会長の退任に伴う役員改選があります。多くの参加によって齋藤会長に慰労と感謝を伝えましょう。総会だけでもご参加ください。

<合宿所内で宿泊>

### 第2日 希望者で弥彦山登山

起床 朝食（各自）・掃除

7:00 合宿所出発（各自又は乗り合わせ）

8:00 弥彦商工会駐車場集合・出発 表参道登山道より登ります

10:00 弥彦山頂大平園地の高頭仁兵衛寿像碑前に集合

（一般にいられている山頂御神廟ではありません。下記の説明を参照）

記念撮影・昼食

12:00 OB会閉会・解散

<補足> 第1日目 総会だけでもOK。宿泊なしでもOK。

第2日目 弥彦商工会駐車場で合流もOK。大平園地集合だけでもOK。

ロープウェイを使って大平園地で合流もOK。

自動車・バイクでスカイラインを使って大平園地で合流もOK。

家族連れ歓迎！

注：弥彦口は通行止めです。野積と岩室から入れます

集合ポイントは以下の4ヶ所です。

① 1日目の総会 18:00

② 2日目の朝、合宿所発 7:00

③ 弥彦商工会駐車場から登山開始 8:00

④ 弥彦山頂大平園地の高頭仁兵衛寿像碑前 10:00

### 弥彦山頂大平園地

ロープウェイ山頂駅から山頂御神廟とは逆方向の多宝山に向かい、スカイラインを横断し、高さにして50m登ると碑と東屋がある広場に出る。360°の展望がきく。

### 高頭仁兵衛寿像碑（たかとうにへいじゅぞうひ）

日本山岳会創立者の一人で初期の日本山岳会の会長になられた越後の生んだ岳界の巨人、高頭仁衛翁の寿像碑。明治10年三島郡深才村（現長岡市）に生まれ、明治39年日本山嶽志を公刊。この寿像は日本山岳会越後支部が昭和25年、弥彦山頂に建立。昭和35年、山頂社務所の改築のため大平へ移された。日本山岳会により毎年、高頭祭が開催され、歴代の日本山岳会の会長らが遺徳を偲んでいる。

申込み：出席の有無を10月18日（水）まで、いずれかの方法で連絡してください。

・同封のハガキ ・メール：webmaster@mtob.sakura.ne.jp ・OB会HP内「会員のひろば」

## 2 役員改選の提案

現在の斎藤勲会長は昭和41年に1回生としてOBになられて以来、OB会のシンボルとして会長をお努めいただきました。会長は以前から世代交代を訴えておられましたが、無理にお願いしてきました。

昨年で在任期間が50年になりました。これ以上お願いするのも非常識なことではないかと相談をすすめ、このたび斎藤会長を顧問に推挙してこれからもご指導をお願いしながら、以下の新役員体制を提案することになりました。正式には総会での提案になりますが、総会の出欠連絡の際にご意見をお寄せください。

顧問	斎藤 勲 (S41)	ライダーズ担当
会長	広瀬守彦 (H07)	事務局住所・返信受け取り、総会担当
事務局長	川村浩貴 (H19)	総会担当
次長	猪熊尚洋 (H03)	ホームページ担当・ライダーズ作成
次長	吉田光二 (S46)	ライダーズ作成・発送・会計担当

## 3 OB会会計報告 (2016年10月～2017年9月)

収 入		支 出		
費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	708,100	通信費	27,316	送料・葉書他
入会金	500	運営費	6,625	消耗品・HP 運営他
2016年総会残金	25,707	総会費	0	
預金利息	5	現役助成	0	
カンパ収入	2,870	慶弔費	4,980	記念品
収入合計	737,182	支出合計	38,921	
		収支残高	698,261 円	次年度へ

繰越金の内訳：部へ貸出中 274,850 円 普通預金 423,411 円

## 4 先生のケルン 斎藤 勲 (山と溪谷4月号掲載紀行文)

私の高校時代に山岳部の顧問をされ、幾多の教えを受けた先生が八十八歳で他界された。九ヶ月が過ぎた頃、山岳部の二年後輩で今は 福島県阿武隈の住人の五郎からメールが来た。

祥月である七月中に先生が好きだった剣岳が良く見え、夏には花に囲まれる場所にケルンを積んで先生の追悼をしたいとの事だった。

先生が亡くなられた時、彼は一人で太郎平から雲ノ平、黒岳、鷲羽岳、三俣蓮華岳、黒部五郎岳と周回する縦走をしていた。折立に下山してから携帯電話の電源を入れ、はじめて訃報を知った。亡くなられて三日後のことだった。山から帰宅した翌日、福島県中通りの東端から新潟県中央部の先生宅をトンボ帰りして仏前に焼香をした。

携帯電話の電波が通らない所にて訃報を受け取れないのは不可抗力で仕方がないことなのだが、先生と同様に山スキーの名手であり、その気働きを先生に愛されていた純真な彼は違った。通夜にも告別式にも出席出来ず、今生のお別れができなかったことを一人で激しく悔いていた。

頼りない先輩であり、最近では体調も優れない私だが、折角の五郎の心底からの申し出を断るほど冷淡ではない。七月の良く晴れた週末を選んで室堂へ向かうことにした。別山周辺の適切な場所を選んで小さなケルンを積んで追悼しようと相談していた。

身体を動かすのが好きな先生であった。バスケットボールや山岳部の顧問を務め、山スキーや溪流釣りに熱中し、休み時間にはテニスに興じていた。年中、校内の誰よりも陽に焼けた黒い顔をしていた。鍛えられた肉体には贅肉がなかった。説得力のある考え方や不言実行の行動力に、一度接点を持った人はみな影響を受けた。

先生は五十六歳で早期退職された。健康に自信があり過ぎの不養生で脳梗塞を発症してしまった。しかし、そこからが他の人と違った。リハビリに励むかわら俳句を作り、川釣り、尾瀬などへのハイキング、自分史の発刊など一生懸命に生きられた。今考えれば周囲の人々や教え子たちに自分の背中が発症後の自分の生き方を教えてきた感があった。

まだ本格的な夏山シーズンには少し早く、室堂行きの乗り物は空いていた。バスターミナルから少し歩き地獄谷の噴煙が風に乗って漂ってくる辺りに投宿し、明朝からの登山に備える。

五郎との山行は三十五年振りだ。一九八〇年の暮れから二週間、ネパールでトレッキングをして以来のことである。

翌朝、夜明け前の四時に宿を発つ。雷鳥坂の登りはいつ登っても辛い。

最近体調の良くない私は極めてゆっくりと休まずに登り続けた。別山乗越へ登る途中で夜が明けた。

晴天の山の夜明けはいつも清々しい。別山乗越に着き、ひと時景色を楽しむ。目の前に大きな岩襖の劔岳、左は大日連峰、右は後立山連峰。周りを山に囲まれている幸せを噛みしめる。そして劔岳はいつ見ても登攀意欲をくすぐる。もう若くない私は昔のように八ッ峰の岩峰や長次郎谷の雪渓を軽やかに登ることは出来ない。遠い昔の登攀を頭に描き懐かしむだけだ。

劔岳は先生が「惚れた山」である。先生が若くて元気だった頃は、ある時は高校山岳部の生徒、またある時は所属していた社会人山岳会の仲間を引き連れて長次郎谷雪渓や他の様々なルートから頂上に立った。「劔の歌」の替え歌の歌詞も自分で作られた。

「長次郎谷つめれば 劔の上に息を切らしてもう一步」

私も若い頃は少しハードな山行に熱中していて甘美な山の時間を過ごした。その原点は、高校時代に先生と一緒に這松の茂みに潜って泊まりつつ見上げた飯豊山中の星空や、あちこちの山で焚火をしながら夜遅くまでさまざまな教えを受けたロマンあふれる世界にあったのだと今にして思う。

別山にはそこから四十分の登りで着いた。別山頂上の祠の周りには数人が休んでいた。

人通りが少なく花が咲いている場所を求め別山北峰の方へ歩いてみる。しばらく行くと、ハクサンイチゲ、チングルマに囲まれ、道から東に数メートル離れた場所が好ましく見えた。劔岳も目の前である。



手頃な岩を集め高さ三十センチほどのケルンを五郎と二人で積む。小さなケルンはすぐにできた。ザックから先生の好きだったカップ入りの麦焼酎を取り出す。ケルンにかけたあと、少し残しておいて二人で献杯しようと言っていたのだが、五郎は残らずケルンにかけてしまった。ワンカップの底に残った一滴ずつを手のひらに振って、二人してなめて献杯とした。

愛飲していた焼酎をケルンにたっぷりとかけられ、空から見ている先生は喜んだことだろう。「よく来たな。たっぷり注いでくれてありがとう」と声がしたようだった。しばし合掌、今まで陰に陽に導いて貰った感謝の念が込み上げてきた。西の空には劔岳が追悼の様子を見守ってくれていた。

大事なセレモニーを終えて、ここからは真砂岳、富士ノ折立、大汝山、雄山を越え室堂に戻る予定である。標高が上がってきて登りが堪える。



私はある時期に五年間、毎秋ネパールへ通った。当時はそれなりに高所に適した体質になったようだったが、あれから六年、今はごく普通の老人が息を切らして、片手に握ったストックに頼りつつ坂をよろよろと登っている。

富士ノ折立から別山方面を見ると我々がケルンを積んだ場所が良く見えた。七キロ離れていてケルンそのものは特定出来ないが、先生のケルンのあたりに最後のお別れをする。イワギキョウがあちこちに咲いていて、白い花崗岩に紫の花々の色合いが美しい。

雄山からの下山は大混雑だ。ヘルメットをかぶった小学生を連れた家族連れが多い。足場が悪く大人自身の身の確保が大変で子供まで目が行き届かない様子だ。「立山参り」の風習が現代にもまだ続いているようにも見受けられる。ルートはどこでも取れるがどこも足場が不安定だ。行く手を良く見定め、混雑を回避しながら、ようやく一の越から室堂平に降り立った。

膝や、以前に捻挫した足首をかばいつつ着いた室堂平は、チングルマ、ハクサンイチゲ、イワイチョウ、ミヤマキンバイなど夏の花々の真っ盛りだった。花の楽園の石畳道を歩きつつ五郎に言われた。今回の山行で感じたことを短歌などで表現し、先生への供養にしたらどうかと。その時以来、思いを熟成させて歌を詠んでみた。幸いにも「山と溪谷二月号」に入選掲載され、今回の追悼山行の集大成となる歌となった。

ケルン積み恩師を偲ぶ夏空に岩と雪なる劔岳雄々しき

不肖の教え子の私が先生の側にゆくのは、先生の亡くなられた齢まで生きられたとして十九年先だ。彼岸に着いたら、焼酎のお湯割りを二人で飲みながら、山の話や俳句談義に花を咲かせたいものだ。それまでは私の随分先の高みを登っておられる先生の背中を見つめながら、この娑婆でもう一頑張りだ。

#### 寸評（選者：遠藤甲太）

山の世界を教えてくれた高校の先生を偲んで、亡き師の愛した劔岳を望む頂稜にケルンを積むべく、旧友と登った折の紀行。作者の旧懐をはらんで、うつりゆく風景が過不足なく文字に染まり、せつなく、うつくしい佳編となった。海外登山やヴァリエーションルートを含め山歴豊富な斎藤氏も、すでに六十九歳、肉体のおとろえを自覚する身である。しかしなお、積んだ石を前に和歌を吟ずるゆとりはあった。じつはこの歌、本誌本年二月号に載っており、それを本稿でも録している。重複だけど、この歌稿をカットするわけにはゆきません。恩師に合掌……。

## 5 現役報告

今年の県総体は優秀校。石川県の白山で行われた北信越大会に出場し、優秀校でした。

☆今年度の顧問 岡村孝先生 久住公彦先生 中村政道先生 田中誠先生

☆今年の部員数 1年生3名 2年生4名 3年生6名

久住先生は山岳部ではありませんでしたが三条工業高校の最後の卒業生で、建設工学科でした。11月に開催される国立登山研修所の「安全登山普及指導者中央研修会」に参加される予定です。

## 6 OB会ホームページも随時更新しています

「会員のひろば」にアクセスするためのID、パスワードは下記のとおりです。念のため部外秘でお願いします。ID：\*\*\*\* / パスワード：\*\*\*\*

掲示板には部の山行報告やOBの登山報告などが投稿されています。皆さんも遠慮なく投稿してください。会員名簿にもアクセスできます。

## 7 ライダース・イン・ザ・スカイ (eメール版)

電子メールで短信を配信しています。配信登録をよろしくお願いします。

【メールアドレス登録ページ】

<http://mtob.sakura.ne.jp/cgi-bin/mag/regist.cgi>

<http://mtob.sakura.ne.jp/ris/index.html#touroku>

携帯電話の設定をご確認ください。「webmaster@mtob.sakura.ne.jp」からの受信を許可してください。



## 全国大会成績評価実施要領と三条工高から受け継いできた県央工高山岳部テーゼ

### 登山大会成績評価実施要領（抜粋）

登山大会は、正しい高校生登山の在り方を求め、その着実な展開と研究を主目的として安全登山を推進するためのものである。単に優勝を競い順位を争うものでなく、大会の主旨を尊重し、登山の基礎的な技術・態度を着実に実践できることを主眼として行うものである。

### 県央工高山岳部テーゼ

- ・四季を通じて健全な登山（精神・技術を含めて）を教えること。
- ・その登山は、社会人になって登山のリーダーとなり得ること。
- ・大会はその励みと実力テストである。

今号作成担当：吉田光二